

# 外国語学科英米語専攻 カリキュラム・マップ (2018年以前入学生)

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏の文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科 目 名	授業形態	配当年度	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
英語A(Reading)	演習	1	1	実際に使用される生きた英語を学習し、基本的な用語や言い回し、様々なテーマに関する一定の長さの英文を素早く理解する。	1.基本的な文法の確認、文と文のつながりと内容を理解する。 2.一定の長さのパラグラフを読み、その内容と要点を理解する。		○	○	◎		
英語A(Usage)	演習	1	1	英語でコミュニケーションをするための約束事を身につけることによって、受信能力(英語の読解力と聴解力)と発信能力(自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力)が求められるさまざまな状況に対応できる実用的な英語力の養成を図る。特にこの授業では、英語の語と句についての約束事を身につけるためのさまざまな学習活動を行う。	1.入門レベルの文法運用力(特に英語の語と句についての文法運用力)を身につける。 2.受信能力につながる文法知識の育成をはかる。			○	◎	○	
英語A(Listening)	演習	1	1	「英語A～C(Listening)」では、大量の英語リスニングを実践する。このコースでは、英語リスニングの初級に相当するため、句や文レベルで起こる諸特徴(音の脱落・同化・連結)を理解することを重視し、その音声変化パターンを学習する。	1.標準的な発音を聞き、似たような音が使われる語を聞き分ける。 2.明瞭かつ注意深い発話で、やや長めの英語表現を聞き取り、理解する。	○			◎	○	
英語A(Presentation)	演習	1	1	英語によるプレゼンテーションの初級クラス(4段階の中の第1段階)に相当し、オーラルコミュニケーションの観点から英語国民の発想・ロジック・非言語的コミュニケーションの要素に着目しながら英語で各種スピーチをしたり、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。本コースでは、英語の各種アナウンスメント・ショートスピーチなどの発表や寸劇などの英語の演技を通して自己表現力を向上させる手法を学ぶ。	1.機長による短い英語のアナウンスメントや有名なスピーチの断片を暗記して聴衆の前でプレゼンテーションをする。 2.プレゼンテーションに必要な声の要素(発音、イントネーション、声量)や顔の表情、ジェスチャーの効果的な表現法を身につける。	○	○		◎		
英語A(Vocabulary Building)	演習	1	1	語彙の意味・用法・発音を総合的に学習する。まず、意味グループで覚える、形態素に注目する方法により、効率的に語彙を増やすことを試みる。さらに、語彙連結や文法的連結にも留意することにより、アウトプット活動につなげることを目指す。なお、本コース終了後も、自ら語彙を強化する試みを続けていけるように、辞書を使用する。	1.高校までに学んだ語彙を定着させ、大学入学後に新たに学ぶ高度な語彙を習得する。 2.受容語彙を発表語彙へと変化させる。		○	○	◎		
英語B(Reading)	演習	1	1	英語で書かれた一定量の長さの評論等の文章を読み、より一層の読解力を身に付けることを目的とする。	1.パラグラフごとに内容を素早く理解し、全体の概要を理解する。 2.より長い評論等の文章を読み、より深い読解力を身に付ける。		○	○	◎		
英語B(Usage)	演習	1	1	英語でコミュニケーションをするための約束事を身につけることによって、受信能力(英語の読解力と聴解力)と発信能力(自分の意見を能動的に英語で書く能力と話す能力)が求められるさまざまな状況に対応できる実用的な英語力の向上を図る。特にこの授業では、英語の準動詞と節と文についての約束事を身につけるためのさまざまな学習活動を行う。	1.入門レベルの文法運用力(特に英語の準動詞と節と文についての文法運用力)を身につける。 2.発信能力につながる文法知識を身につける。				◎	○	
英語B(Listening)	演習	1	1	音声教材をよく聞き、モデルに近い音を模倣・反復することにより、英語の聴覚像を身につけることを目指す。自然な英語に慣れるため、英語圏の映画・ドラマ・ニュース・インタビューなども教材として用いる。	1.標準的な発音、ゆっくりとした口調で、短いニュースを聞き取り、半分以上を理解する。 2.多少のなまりがあってもその発話を理解する。	○			◎	○	
英語B(Speaking)	演習	1	1	社会生活の様々な場面で口頭でのコミュニケーションをはかる能力を養成する。本コースでは、ロールプレー、ペアワーク、ゲームなどを通じて、買い物・電話・学校生活などの特定の場面で、聞き手の発話を理解し、自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な個々の発音や、句や文単位での音の同化や連結の練習も平行して実践する。	1.英会話技術を高め、基礎英会話のフレーズに親しむ。 2.十分に意思が伝わるイントネーション、発音、語句の運用を目指す。	○	○		◎		
英語B(Presentation)	演習	1	1	英語によるプレゼンテーションの中級クラス(4段階の中の第2段階)に相当し、本コースでは、有名人の各種英語スピーチの一部を暗記して実践するとともに、身振り・手振り・顔の表情・体の動き・声の要素などのデリバリー能力の理論と実践を学ぶ。また、パワーポイントを使用して自然・文化・環境問題・社会問題を発表する実践力を養う。	1.有名人の英語のスピーチ暗記して聴衆の前でプレゼンテーションする力を養う。 2.プレゼンテーションに必要な声の要素(発音、イントネーション、声量)などのデリバリーの効果的な表現法を学ぶ。	○	○		◎		
英語C(Reading)	演習	2	1	筆者の中心メッセージを押さえることに主眼を置きつつ、各文章の構文、文法をより正確に捉え、より深い英文読解力を養う。	1.ページ単位での内容理解を深め、数ページごとの理解を素早く行い、日本語訳や要約ができるようにする。 2.筆者の中心メッセージを押さえることに主眼を置きつつ、各文章の構文、文法をより正確に捉え、より深い英文読解力を養う。		○	◎	◎		

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科 目 名	授業形態	配当年度	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
英語C (Usage)	演習	2	1	この授業では、2つ以上の文を結びつけて英語のテキストを構成する際の約束事を「情報構造」という概念に基づいて身につけるためのさまざまな学習活動を行う。	1.主に文の情報構造の学習を通して中級レベルの文法運用力を身につける。 2.英語による発信能力をさらに培う。	○	○	○	○	○	○
英語C (Writing)	演習	2	1	英語を書く能力の基礎を養う初級編である。英語を書く際に注意すべき事項から基礎となるレベルのものを身につける。そのため、実践中心のトレーニングを実施する。和文英訳ではなく、自分の言いたいことを英語の発想で英語らしい表現で表すことを学ぶ。この授業で身につけた英語表現力は「英語D～F (Writing)」へとつながる。	1.3人称単数の“s”など基本的な文法事項のミスを起こさない。 2.英英辞書を使い、語の微妙なニュアンスにも気を配りながら短い英文を書く。	○	○	○	○	○	○
英語C (Listening)	演習	2	1	この授業は、英語リスニングの中・上級に相当する。「英語A-B (Listening)」で学習した能力のさらなる向上を目指すために、英語国民が日常的に接しているマスメディアで使われる英語を使って訓練をする。口語の特徴に重点を置いたリスニングを目指す。	1.標準的な発音が使われたニュースを大まかに理解する。 2.多少のなまり、口語特徴を理解し、大まかに内容を理解する。	○	○	○	○	○	○
英語C (Speaking)	演習	2	1	「Speaking B」で学習した内容を発展させ、聞き手の発話を理解し、自ら意思表示をする訓練を行う。また、日本人には習得が困難な英語のプロソディの要素についてもさらに練習する。	1.本コースでは、「Speaking B」で習得した意思表示に磨きをかける。 2.イントネーション、発音に注意し語彙力の向上もはかる。	○	○	○	○	○	○
英語D (Reading)	演習	2	1	より高度な英文を精読することにより語彙、文法、構文を確認しながら、英語の文章構成や文脈において内容を正確に把握し、中心メッセージについての理解を深める。文化的、歴史的背景についても正しく理解する。	1.時事英語や日常生活でよく使われる表現を扱ったテキストなどに頻出する専門用語を含む英文が理解できる。 2.複雑な英語の文章構成や文脈において内容を正確に把握し、中心メッセージについて正しく理解できる。	○	○	○	○	○	○
英語D (Usage)	演習	2	1	この授業では、2つ以上の文を結びつけて英語のテキストを構成する際の約束事を「主題構造」、「結束機能要素」などの概念に基づいて身につけるためのさまざまな学習活動を行う。	1.主に「主題構造」と「結束機能要素」という概念に基づいて上級レベルの文法運用力を身につける。 2.明示的な文法知識を内在化させ、暗示的な知識への移行をはかる。	○	○	○	○	○	○
英語D (Writing)	演習	2	1	パラグラフを書く内容を教えながら、模範となる英文を多量に読ませ、その表現や語彙を学ばせる。日常的なテーマに対する自分の考えを、初級レベルの英語でありながら、パラグラフ・ライティングの仕組みに基づいて論理的に表現できるようにすることを目指す。予習や課題を出し、学習成果をテストでチェックしながら授業を進める。	1.トピック・センテンスやコントローリング・イディアを理解する。 2.模範となる英文を読ませ、その構成を習得する。	○	○	○	○	○	○
英語D (Listening)	演習	2	1	英語リスニングの総仕上げである。これまで学んできた内容をもとに、BBC・CNN・ABCなどのイギリスやアメリカのラジオ・テレビ番組で放送されているニュース・スピーチ・インタビューなどを教材として用いる。英語母語話者のナチュラルスピードを聞き取れるようになる訓練を行う。	1.どのような種類の英語でも、母語話者の英語を理解する。 2.ニュース、映画などの幅広いジャンルで使用される英語を十分に理解する。	○	○	○	○	○	○
英語D (Speaking)	演習	2	1	この授業は、英語リスニングの中級クラスに相当する。「英語C (Speaking)」で身につけたコミュニケーションスキルを媒体に、社会生活で遭遇する様々な場面にも即時的に対応できる会話能力を養成することを目指す。授業では、ロールプレー・ペアワーク・ゲームなどを通じて、大量のアウトプットを行う。また、つなぎの言葉の使用、会話の進行のコントロールなどのコミュニケーション・ストラテジーを用いる練習も行う。	1.英語国民のことば、文化、コミュニケーション・パターンに着目する。 2.様々な社会的場面で発話するための実用的なオーラル・コミュニケーション能力を養成する。	○	○	○	○	○	○
英語E (Reading)	演習	3	1	英語で書かれた現代社会を理解するための基本文献や評論、論文を精読し、自分の考えを持つ。	1.さまざまなトピックに関して、世界の事象に関する知識、英語の文章構成や文脈において内容を正確に把握し、考察することができる。 2.言葉のニュアンスや文体の綾、洒落などを理解し正確に訳すことができる。	○	○	○	○	○	○
英語E (Rapid Reading)	演習	3	1	既得のリーディングスキルを発展させ、速く正確に読むための方略を学ぶコースである。小説・論文・新聞・雑誌記事などのさまざまな英文を適当な速さで多読し、内容を理解させる能力を高めることを目指す。読む題材・読む目的によって読み方が異なることを認識したうえで、内容理解に重点を置きながら、パラグラフの構成、論理の展開、リーディング方略など、速読に必要な事項を確認していく。	1.300語以上のテキストで多少難しい語彙があっても短期間で読み解くことができる。 2.話の前後関係から知らない語の意味を推測し、理解する。	○	○	○	○	○	○

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)										
科 目 名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
英語E (Writing)	演習	3	1	「英語D (Writing)」の授業で習得したパラグラフ・ライティングを基に、書く内容を時事問題、社会問題にまで広め、自分の考えを表現できるようにすることを目指す。時事問題などを取り扱った教材から模範となる英文を読ませることで、自分の考えを論理的に表現できるようにすることを目指す。毎回、予習や課題などを課し、学習成果をテストでチェックしながら授業を進める。	1.社会問題などの英文を読ませ、その内容を理解するだけでなく、自分の見解を構築する。 2.論理的に意見を述べる力を身につける。					○	◎	◎
英語E (Speaking)	演習	3	1	この授業は、英語リスニングの総仕上げとして、様々な英語圏および自国の文化などについて自分の考えを論理立てて相手に的確に伝えたり発表したりする力を身につけることを目的とする。「英語D (Speaking)」と同様に、新聞・雑誌・ドラマ・ニュースなどを駆使してインプットを行った後、理解した内容について、クラス全体、またはグループやペアでディスカッションする。また、ディベートやプレゼンテーションなどの発展的な活動にもつなげる。	1.英会話を不自由なく、活発に行える。 2.発音が明瞭であると同時に、文法の正確さも高める。					○	◎	◎
英語E (Presentation)	演習	3	1	本コースでは、さまざまなトピックに基づいて英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、「英語B (Presentation)」で学んだデリバリー能力を駆使して、聴衆の心に響くプレゼンテーション能力を学ぶ。	1.プレゼンテーションに必要なデリバリーの要素を網羅し、効果的な表現法を身につける。 2.パワーポイントを活用して聴衆を説得する力を養う。					○	◎	◎
英語F (Rapid Reading)	演習	3	1	この授業は、Rapid Readingの初級・中級クラスである。「英語E (Rapid Reading)」で習得したスキルをもとにして、早く正確に読む力を増強することを目的とする。小説・論文・新聞・雑誌記事に加え、エッセイ・ウェブサイトの題材・文化論・時事問題・各種能力試験問題などのさまざまな英文を、適当な速さで多読し、内容を正確に理解する能力を高めることを目指す。	1.英文の読み返しをすることなく、読み進めるようになる。 2.高度な内容の英文であっても、話の内容を8割以上理解する。					○	◎	○
英語F (Journalism English)	演習	3	1	海外や国内の英字新聞や英文週刊誌などの報道記事を精読させることによってジャーナリズム関連の語彙を習得させる。さらに、英語圏のラジオやテレビで放映されている世界のニュース・インタビュー番組を大量にリスニングして理解し、各自の運用能力に組み込んでいく手法を学ぶ。課外でも毎日英字新聞を精読したり海外の英語ニュース報道の音声に親しむ習慣を身につけさせるために、相当量のハンドアウトと音声データを毎日の課題として配布する。	1.英字新聞で使われる語彙を習得する。 2.報道記事を読むことで、英語で放送される世界情勢にも関心を持つ。					○	◎	◎
英語F (Writing)	演習	3	1	英語の文章を構成するトレーニング(トピックの選び方、論じる範囲の限定、データの収集、アウトラインの作成法など)を行う。そのうえで、複数のパラグラフを論理的に構成してひとつの文章を書くようにする。まずは模範となる英文の構成を分析的に学ぶことから始め、特定のテーマについて実際にいくつかのパラグラフからなる文章を作成していく。	1.書く内容に一貫性をもたせる。 2.模範となる英文に近い構成にする。					○	◎	◎
英語F (Presentation)	演習	3	1	本コースでは、箇条書きのメモ、またはメモなしで英語による各種スピーチをし、英語で発表することができる実践的なプレゼンテーション能力を養成する。また、informative speech、ceremonial speech、persuasive speechなどの英語スピーチを各自で作成する技法を学ぶとともに、聴衆を笑わせるユーモアのセンスを駆使した各種スピーチをクラス内で発表する。	1.informative speech、ceremonial speech、persuasive speechなどの英語の実践的スピーチを作成し、発表する能力を養う。 2.プレゼンテーションに必要なデリバリーの要素を網羅し、顔の表情やジェスチャーを効果的にスピーチに組み入れる手法を学ぶ。					○	◎	◎
英語F (Content Based English)	演習	3	1	Content Based Englishは、3年次の秋学期から4年次の秋学期まで3セメスターにわたって合計5つを3段階に分けて開講し、すべてを英語で展開する講義授業である。この授業はその第1段階に相当し、3年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義する。第1段階では、英語の講義の要点を正確かつ迅速に英語でノートテキングする能力養成を中心に学ぶ。	1.英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などのアカデミックなトピックに関して行われる英語での講義が理解できる。 2.英語による講義の要点を理解し、的確かつ迅速にノートテキングする訓練をする。					○	◎	○

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科 目 名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
英語G(Content Based English 1)	演習	4	1	この授業は、3年次の秋学期から4年次の秋学期まで3セメスターにわたって合計5つを3段階に分けて開講する、すべてを英語で展開する講義授業の第2段階の前半に相当する。3年次までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などの専門性の高いトピックを多角的に英語で講義する。この第2段階では、英語の講義の要点を正確に英語でノートテイクすると共に講義内容に関して矢継ぎ早に質問したり、評論・分析したりする力を養う。	1.英米の言語・歴史・社会・文学・文化・英語教育などのアカデミックなトピックに行われる英語での講義が理解できることを目標とする。 2.英語による講義の要点を理解し、的確にまた迅速にノートテイクする訓練をする。	○	○	○	○	○	○
英語G(Content Based English 2)	演習	4	1	この授業は、英語G(Content Based English 1)と異なったテーマで行う。すべてを英語で展開する5つの講義授業の第2段階の後半に相当する。3年次までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ専門性の高いトピックを多角的に英語で講義する。英語G(Content Based English 1)と同様に、英語の講義の要点を正確に英語でノートテイクすると共に講義内容に関して矢継ぎ早に質問したり、評論・分析したりする力を養う。	1.アカデミックなトピックに行われる英語での講義をより正確に理解し、より正確にノートテイクする能力を育成する。 2.講義内容に関して英語で質問をしたり、また自らに発せられた質問に瞬時に英語で返答できることを訓練をする。	○	○	○	○	○	○
英語H(Content Based English 1)	演習	4	1	この授業は、英語H(Content Based English 2)と異なったテーマで同様の授業を行う。英語で展開する講義授業の第3段階(最終段階)の後半に相当する。4年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ専門性の高いトピックを多角的に英語で講義する。この第3段階では、さらに、第1段階と第2段階で習得した能力を基に、講義内容に関する具体的なテーマについて、受講生が協力し合い、英語を使ってアカデミックな内容のプレゼンテーションを行う。	1.アカデミックなトピックに行われる英語での講義を理解し、ノートテイクを行い、英語で質疑するなどの、講義を受講するための総合力を育成する。 2.講義内容に関して、受講生がグループで討議し、また協働活動を通じて自分たちの意見をまとめ、最後に英語でプレゼンテーションができることを目指す。	○	○	○	○	○	○
英語H(Content Based English 2)	演習	4	1	この授業は、英語H(Content Based English 1)と異なったテーマで同様の授業を行う。英語で展開する講義授業の第3段階(最終段階)の後半に相当する。4年次の春学期までに英米語専攻科目を通じて習得された英語力が効果的に応用・運用されるように、各担当教員が選ぶ専門性の高いトピックを多角的に英語で講義する。この第3段階では、さらに、第1段階と第2段階で習得した能力を基に、講義内容に関する具体的なテーマについて、受講生が協力し合い、英語を使ってアカデミックな内容のプレゼンテーションを行う。	1.アカデミックなトピックに行われる英語での講義を理解し、ノートテイクを行い、英語で質疑するなどの、講義を受講するための総合力を育成する。 2.講義内容に関して、受講生がグループで討議し、また協働活動を通じて自分たちの意見をまとめ、最後に英語でプレゼンテーションができることを目指す。	○	○	○	○	○	○
英米文学概論	講義	2・3・4	2	異文化コミュニケーションを学ぶ上で欠かせない、人の「心」を理解することを学ぶ。そのための基礎として時代背景や、韻律法、作劇法、小説理論を学ぶ。	1.文学作品の時代背景や、韻律法、作劇法、小説理論を応用して作者の意図を知る。 2.読者として批評を行うことができるようになる。	○	○	○	○	○	○
英文ジャーナリズム事情	講義	2・3・4	2	アメリカのジャーナリズムおよび日本における英文ジャーナリズムの状況を解説し、将来のジャーナリストを志す学生を養成する実践中心のワークショップ。プロのジャーナリストを目指さない学生たちにも、英文ジャーナリズムを通してアメリカや日本の政治経済情勢に関する英文記事を書く機会を与える。世界情勢・日本情勢について書いた英文をすぐに講師が添削して、実践力を養う。また、世界の政治・経済・文化情勢を正確に分析する知見も養成する。	1.日本や世界情勢を正確に分析する能力を養う。 2.政治・経済・文化・世界の諸問題に関する英文記事を正確にかつ迅速に書く実践的能力を養う。	○	○	○	○	○	○
英米政治経済論	講義	2・3・4	2	主としてアメリカの1930年代、1940年代を中心とした政治経済状況を、アメリカ史の大きな流れの中で論じる。特に第2次世界大戦時のアメリカの戦時動員体制や国家経済のあり方、戦争がアメリカ社会に与えた影響などを論じることにより、戦後のアメリカ社会のあり方がよく理解できるようになる。政治と経済の相互作用を理解することにより、現代アメリカにおける国家や社会を正確に観察する目を養うことを目指す。	1.アメリカの政治・経済に関する基礎知識を習得し、アメリカの政治・経済関連の書籍や論文を独力で読める能力を養う。 2.現代アメリカの大統領制やアメリカの政治・経済が世界にどのような影響を与えているのかを見抜く見識を養う。	○	○	○	○	○	○
伝道英語	演習	2・3・4	1	天理教の英語用語に精通することによって天理教教義を英語で正しく理解する読解能力と天理教教義を英語で案内・説明・解説する能力を養成する。天理教独特の英語表現を学ぶと共に、天理教の各種テーマに基づいて英語でディスカッションする実践的なクラスを展開する。更に天理教の教義を英語で培うことによって、文化や言語を超えた世界、いわゆる信仰の不思議な地平の本質を語る場も提供する。	1.天理教の基礎教義を英語で読解し、英語圏で活動する諸宗教を意識しながら、自ら英語で天理教の紹介ができるようになる。 2.言語を超える文化的普遍性(transcultural)の概念を学びながら、諸宗教間の共通点や相違点をより具体的に知ることができる。	○	○	○	○	○	○

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏の文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)										
科 目 名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
論文作成法	演習	3・4	2	英語と日本語で理路整然と論文を執筆するための実践的知識をインプットすると共に論文を執筆するための具体的な手順を学ぶ。特に、英語論文と日本語論文のそれぞれの構成・ロジック・論文特有の表現に精通すると共に実際に論文の一部を作成することによって実践力を養成する。文献資料収集にあたっては、文献・論文・データベース・ネット資料を効果的に収集する方法を学び実際に各自のテーマに基づいて文献資料収集を実践する。天理図書館と国立国会図書館書庫検索、CiNiiの学術論文収集に精通する。	1.卒業論文・卒業課題研究執筆のための文献・資料収集の手順、本論の構成と執筆手順を学ぶ。 2.間接引用・直接引用の手順を学び、実践的に執筆する文中に応用する力を養う。	○	○	◎	○	○	○	○
英語科指導法 1	講義	3	2	この授業は、英語科教員免許の取得を希望する受講生を対象に実施する。「英語科指導法1」では、英語科教員を目指す者への心構えを身につけさせ、また教員免許取得に必要な予備知識を与えることを目的とする。具体的には、「英語教育の目的」を理解し、「英語科教員に求められる知識と英語学力」を確認する。次に、英語教授法の歴史と各教授法の概要を学び、さらに過去と現在の日本社会と英語教育の関係、および「学習指導要領」の内容について学習する。授業では講義だけでなく受講生による発表や討論を行う。	1.英語科教員を目指す心構えを確認し、英語教育に関する基礎的な知識を修得する。 2.英語教授法の歴史を学び、わが国の英語教育の歴史や現状、特に学習指導要領について理解する。	○	○	○	○	◎	○	○
英語科指導法 2	講義	3	2	この授業は、「英語科指導法1」の継続科目として実施する。ここでは、英語科教員に求められる知識のうち、言語習得理論(「言語生得説」「インプット仮説」「動機づけ」「意識化と明示的知識の役割」など)の基礎を学習し、続いて各教授法(「文法訳読法」「直接法」「Cognitive Approach」「Audio-lingual Method」「Communicative Approach」)を用いた授業展開、各言語領域の指導方法、指導案の作成などについて学習する。また、実際の授業を視聴覚教材などで学習したのち、受講生一人ひとりによる模擬授業を実施する。	1.第2言語習得論の理論を理解し、様々な英語指導法の長所と短所を確認することで、より良い英語指導法を自ら模索する。 2.「英語科指導法1」で学んだことを基に、中学または高校の授業の流れを作る、約30分の模擬授業をクラスで展開する。	○	○	○	○	◎	○	○
英語科指導法 3	講義	3	2	この授業は、「英語科指導法1、2」の発展科目として実施する。「英語科指導法3」では、まず英語科教員に求められる知識と技術のうち、より実践的で、より教室での指導に関係する項目について学習する。クラスルーム研究のうち、特に「Input/Output関連研究、イメージ教育、学習方略研究などについて学ぶ。後半では、発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、個々の言語領域の指導法とテクニックについて学習し、メディア・音声機器の使用、補助資料・小テストなどの作成を体験する。	1.英語科指導法の理論学習のうち、より実際の教室での指導に関係する内容を学習し理解する。 2.発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、英語指導の基礎的な領域の指導法を的確に理解する。	○	○	○	○	◎	○	○
英語科指導法 4	講義	3	2	この授業は、「英語科指導法3」で学んだことを発展させ、受講生にそれぞれの言語領域をテーマにした模擬授業を体験させることを主な目的とする。「英語科指導法3」で学んだ具体的な言語領域の指導法をもとに、実際の教科書を用いた英語4技能の指導方法と、発音・文法・語彙の指導法の習得をめざす。その上で、いっそう受講生による模擬授業を実施する。また教育実習の事前指導として、実習生の心得と予備知識、学校の組織と教員の任務などに関する講義、中・高英語科教員を招いての講話、実習前現場訪問による授業参観などを行う。	1.発音、語彙、文法、コミュニケーション活動など、英語指導の基礎的な領域の理解を基にして、聞き、話、読み、書くという、英語4技能の効果的な指導法を学習する。 2.「英語科指導法3」で学んだことを基に、語彙、発音、文法、もしくは英語の4技能に関する、約30分の模擬授業をクラスで展開する。	○	○	○	○	◎	○	○
英語学入門 1	講義	2・3・4	2	3年次の「英米語演習1」「英米語演習2」と4年次の「英米語演習3」「英米語演習4」などを通して行う英語学についての研究活動への入門となるものとして位置づけられた科目である。この講義を通して英語学の基礎的な事柄を身につけてもらう。音レベルから文レベルまでを概説し、理解させることを主たる目的とする。	1.英語という言語に関心を持つ。 2.英語の表現に関する歴史的背景、語源、アメリカ・イギリス英語などの語彙、音の違いに関する知識を得る。	○	◎	◎	○	○	○	○
英語学入門 2	講義	2・3・4	2	「英語学入門1」そして「英米語演習1-4」などを通して英語学における研究活動にさらに磨きをかけるコースである。各分野で提唱される説に基づいた考察を加え、反例などを見つけさせる。	1.授業で習った内容を基に映画や日常会話で使われる表現を観察、分析できるようにする。 2.英米語演習(英語学)につながる専門知識を身につける。	○	◎	◎	○	○	○	○
英米史入門 1	講義	2・3・4	2	植民地時代から南北戦争にかけて、英国との関係に配慮しつつ、米国の歴史的展開を政治、経済を中心に理解する。	1.日本語による教科書のみならず、重要文書を英文一次資料を用いて読む。 2.英米史のみならず、広く歴史研究の方法についても理解できるようになる。	○	◎	◎	○	○	○	○
英米史入門 2	講義	2・3・4	2	南北戦争後から現代までの米国について、政治、経済のみならず、文化、社会まで射程をひろげ、多角的にその歴史的展開を理解する。	1.文書資料のみならず、映像や他の媒介による歴史資料にふれる。 2.多様な歴史研究のあり方について理解できるようになる。	○	◎	◎	○	○	○	○

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏の文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)											
科 目 名		授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
							①	②	③	④	⑤	⑥	
英米社会入門 1		講義	2・3・4	2	多文化・多民族国家アメリカを解剖するために大統領制、移民の現状と課題、女性問題、家庭問題、教育問題などを幅広く学ぶ。	1.多文化・多民族国家アメリカを多角的に理解できるように幅広く文献を読む力を養う。 2.多文化・多民族国家アメリカの理解を促進する英語の資料を収集し、読破する力を養う。	◎	○	◎	○			
英米社会入門 2		講義	2・3・4	2	多文化・多民族国家アメリカを解剖するために大統領制、移民の現状と課題、女性問題、家庭問題、教育問題などを幅広く学ぶと共に、それぞれの問題に対して自分自身の意見を持つことができるようにディスカッションしたり、発表したりする能力を養う。	1.多文化・多民族国家アメリカを多角的に理解し、発表する力を養う。 2.多文化・多民族国家アメリカの理解を促進するために各種トピックをディスカッションしたりディベートする機会を持つ。	◎	○	◎	○			
英米文学入門 1		講義	2・3・4	2	演習に向けて文学作品を読み込む準備として、文学作品を実際に読み、鑑賞力を養い、解釈する方法を学ぶ。各自授業で学んだことをもとに一人(もしくはグループ)15分程度の発表またはレポートを書く。	1.時代背景や文化的背景に関する知識を身につける。 2.同時代の他の芸術についてもその思想を理解する。		◎	◎	○			
英米文学入門 2		講義	2・3・4	2	演習に向けて文学作品を読み込む準備として、文学作品を実際に読み、鑑賞力を養い、解釈する方法を学ぶ。各自授業で学んだことをもとに一人(もしくはグループ)15分程度の発表またはレポートを書く。	1.作品に表れた考え方、感じ方を自己を離れた立場から理解する。 2.自ら考えたことに基づいて、各自のテーマを発表する。		◎	◎	○			
英米特殊研究入門 1		講義	2・3・4	2	この授業は3,4年次の「英米語演習(英語教育)1~4」を中心として行う英語教育学の専門的な研究への入門となるものとして位置づけられた科目である。ゼミでの学習法、および英語教育学の基本的な知識を講義とディスカッションを通して習得する。英語学習法や英語教授法について、体験したり、ビデオを視聴したりしながら学習する。	1.テキスト批評、英語文献購読、ディベートなどを体験し、ゼミでの学習法を身につける。 2.英語教育学の基本的な知識を身につける。	◎	○	◎	○			
英米特殊研究入門 2		講義	2・3・4	2	この授業では、3年次から始まる「英米語演習(英語教育)」で学習する内容からいくつか項目を絞り、3年次の演習を受講するにあたっての導入を行う。具体的には、自らの英語学習・指導経験を振り返りながら、第二言語習得論・英語教授法の基本的な理論(学習者の動機づけ、学習ストラテジー、各種英語教授法など)について概観する。	1.様々な学習ストラテジーを用いた実際の英語学習を体験しながら、自らの英語力を確認する。 2.英語教育学の基本的な知識をより発展的に身につける。	◎	○	◎	○			
英米語演習1[英語学]		演習	3	2	次年度の「英米語演習3」と「英米語演習4」での研究や「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。英語学、言語学などの講義科目で得た知識をさらに増やし、より専門的な情報を得ることを目的とする。また、関心のあるテーマを少人数の演習形式で専門的に深く研究させる。	1.英語での諸現象を理論的に説明する。 2.文献資料の収集方法を学ぶ。	○	◎	◎	○			
英米語演習1[英米史]		演習	3	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。テキストを丁寧に読むことで、歴史的内容のみならず、歴史記述の方法について学ぶ。	1.英米史に関する基礎的な知識を培う。 2.研究書を含む2次資料を確実に理解し、まとめる力を身につける。	○	◎	◎	○			
英米語演習1[英米社会]		演習	3	2	この授業は3,4年次の「英米語演習(英米社会)1~4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第1段階として位置づけられた科目である。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会の全貌を解剖、検証しようとする試みは、意義はあるもののその膨大な範囲と裾野を考慮すると不可能に近い難題ともいえる。従って、本コースにおいては、アメリカ社会における宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野に焦点を絞って、多面的な社会的諸相を解明する。	1.この授業の目的は、5つの分野の歴史的経緯をひも解くと共に、現代のアメリカ社会が直面する諸問題を多角的に検証する。 2.幅広く英語と日本語で各分野の資料を読み、ディスカッションする。	○	◎	◎	○			
英米語演習1[英米文学]		演習	3	2	文学作品並びに芸術一般に関する広範な知識をもとに、自らテーマを追求し、卒業論文へとつなげる。	1.英米文学概論や入門で得た知識を援用して作品をさらに深く理解し解釈する。 2.先行研究や批評理論を読み、自らテーマや仮説を立てて必要なことを調べ、レポートが書ける。	○	◎	◎	○			
英米語演習1[英語教育]		演習	3	2	どんなふうには英語を効果的に学べるだろうか。どんな授業が効果的なのだろうか。この授業では、誰でも抱いたことがあるこのような質問に対する答えを、第二言語習得論・英語教授法に関する英文・和文の文献を精読し、また自らの英語学習・指導経験を振り返りながら模索する。特にこの授業では、理論面を重視しながら学ぶ。	1.英語教授法についての知識を身につける。 2.第二言語習得研究の成果を学ぶ。	○	◎	◎	○			
英米語演習2[英語学]		演習	3	2	「卒業課題研究」「卒業論文」などへ発展するための基礎となる授業である。「英米語演習1」(英語学)での学習内容をより深く研究させ、少人数の演習形式で研究させる。	1.専門書の内容、様々な言語現象の説明を理解し、自分のことばで解釈する。 2.客観的、時には批判的に専門書を読む習慣を持たせる。	○	◎	◎	○			
英米語演習2[英米史]		演習	3	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。1次資料を丁寧に読むことで、歴史的内容のみならず、歴史記述の方法について掘り下げて学ぶ。	1.資料を確実に理解し、まとめる力をさらに強化する。 2.書評論文を書けるようにする。	○	◎	◎	○			

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏のことば・文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科 目 名	授業形態	配当年度	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
英米語演習2[英米社会]	演習	3	2	この授業は3,4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第2段階である。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野に焦点を絞って、多面的社会の諸相に精通する。そのために各自が研究テーマを決めて資料収集し、仲間とディスカッションすると共にパワーポイントで発表する。	1.各自の研究テーマに沿って資料を収集し、そのテーマをクラス内でディスカッションしたり、ディベートする力を養う。 2.各自の研究テーマに沿って資料を収集し、そのテーマをクラス内で発表する力を養う。	○	◎	◎		○	
英米語演習2[英米文学]	演習	3	2	文学作品並びに芸術一般に関する広範な知識をもとに、自らテーマを追求し、卒業論文へとつなげる。	1.さらに深い知識と洞察を用いて作品を深く理解する。 2.自らのテーマあるいは仮説を文学研究全体の中で位置づけ、論理的に考察し論証したレポートが書ける。	○	◎	◎		○	
英米語演習2[英語教育]	演習	3	2	この授業では、英文・和文の文献を精読し、また自らの英語学習・指導経験を振り返りながら、第二言語習得論・英語教授法に関する知識を深化させる。特にこの授業では、実践面を重視しながら学ぶ。各種教授法、リーディング指導、ライティング指導、リスニング指導、スピーキング指導などをテーマとする。	1.英語教授法についての知識をより発展的に身につける。 2.第二言語習得研究の成果をより発展的に学ぶ。	○	◎	◎		○	
英米語演習3[英語学]	演習	4	2	3年次の「英米語演習1、2」で行った基礎研究を土台にして、この「英米語演習3」では、ひとりひとりの研究の深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための代案の提示が求められる。	1.関心のあるテーマを見つけ、そのテーマの研究の意義を見つけさせる。 2.しかるべき文献にあたり、その内容を理解したうえで発表する。		◎	◎			○
英米語演習3[英米史]	演習	4	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。各々の学生は具体的な研究テーマを見つけ、掘り下げた研究を進める。	1.英米史に関する資料を自ら収集する力を養う。 2.論文作成を通して、研究課題を見つけ解決する力を身につける。		◎	◎			○
英米語演習3[英米社会]	演習	4	2	この授業は3、4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への4段階の第3段階に相当する。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野から選び、各自のテーマをさらに掘り下げ発表し、卒業論文へと発展させる。教員やクラスメートからコメントをもらい内容の充実に努める。	1.英米語演習1と英米語演習2で培われた資料収集能力と発表能力を駆使して、各自のテーマの深い洞察力と観察眼を養う。 2.資料収集能力と発表能力を駆使して、各自のテーマで卒業論文・課題研究の執筆を開始する。		◎	◎			○
英米語演習3[英米文学]	演習	4	2	英米語演習1・2で学んだ知識をベースに、テキストを精読することにより、批評の手法に則り自分の意見をまとめる。	1.複数の代表的な文学作品について自分の意見をまとめ、口頭発表、レポート作成を行うことができる。 2.信用できる資料を自ら選別し集めて、批評を加える手法を学ぶ。		◎	◎			○
英米語演習3[英語教育]	演習	4	2	この授業では、卒業課題研究・卒業論文を執筆するためのリサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方などを学ぶ。さらに、各自が興味のあるテーマを選択し調査研究を行い、その内容について発表をする。発表者は、他の受講者や演習担当者からのフィードバックを媒体にして、調査研究をさらに発展させる。	1.各学生が選んだ卒業課題研究・卒業論文のテーマについて調査研究し、論文執筆に着手する。 2.英語教授法、および第二言語習得研究についての理解を深化させる。		◎	◎			○
英米語演習4[英語学]	演習	4	2	「英米語演習1-3」までの内容から各自が選んだ関心のあるテーマについて、ひとりひとりの研究内容のさらなる深化と発展を図る。具体的には、各自の研究テーマに関して、従来の研究の再整理、それらの研究の問題点の指摘、およびそれらの問題点を解決するための代案の提示が求められる。	1.各自がテーマを設定し、ある言語現象に対して自分の研究を進める。 2.文献資料や自ら収集した調査資料を用い、自己の研究を検証する。		◎	◎			○
英米語演習4[英米史]	演習	4	2	英米史について、アメリカを中心に研究する。各々の学生は自らの研究テーマについて掘り下げた探究を進める。	1.自らの論文を完成させる。 2.他の学生の論文について批評できる力をつける。		◎	◎			○
英米語演習4[英米社会]	演習	4	2	この授業は3、4年次の「英米語演習(英米社会)1-4」を中心として行う専門的な研究への最終段階に相当する。多民族・多文化から成り立っているアメリカ社会を解剖するために宗教・教育・女性・家族・エンターテインメントの5分野から決めた各自の題目について、大々的に文献や資料を収集すると共に各章ごとの発表を続け、卒業論文執筆を課外で続ける。ゼミのクラスでは教員から直接個別指導を受け、卒業論文執筆につなげる。	1.資料収集能力と発表能力を駆使して、各自の卒業論文・卒業課題研究の執筆を進め、ゼミ内で発表する。 2.クラスメートの卒業論文・卒業課題研究に関する発表を聞いてコメントをし、分析力と評論力を養う。		◎	◎			○
英米語演習4[英米文学]	演習	4	2	英米語演習1・2で学んだ知識をベースに、テキストを精読することにより、批評の手法に則り自分の意見をまとめる。	1.卒業論文に必要な資料を自分で集める。 2.作品を読みこみ、批評を加える。		◎	◎			○

ディプロマ・ポリシー DP (Diploma Policy)	高度な英語運用能力と広く深い異文化理解に裏付けられた国際的視野をもつ人材を本学の教育理念である「国際性」「宗教性」「貢献性」に基づいて養成します。英語の教員、研究者、翻訳・通訳など専門性の高い分野で社会貢献をしたり、国際的に通用する高度な英語力を駆使して国内外のあらゆる分野で貢献したりすることのできる人に、学士(英語)を授与します。具体的には右に示す6項目を目標とします。	①本学の教育理念である「国際性」を身につける。(国際性) ②英語圏の文化・コミュニケーション・歴史・習慣などの見識をもち、それらの情報の収集能力がある。(英語圏の見識) ③英語力を礎に専門性の高い学問を英語学・英米文学・英米史・英米社会・英語教育などの領域から自ら選択して探求する。(英語で学問探求) ④国内外で異文化理解を踏まえた英語のコミュニケーションができる。(英語コミュニケーション力) ⑤英語を道具として活躍できる教員や通訳をはじめ、あらゆる分野で英語力を発揮できる。(仕事で通用する英語力) ⑥国際的に通用する高度な英語力を駆使して日本と海外の橋渡しをし、国内外の地域社会や各種団体に貢献できる。(国内外での貢献性)									
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
英米語演習4[英語教育]	演習	4	2	この授業では、英米語演習3で学習した、リサーチの方法、文献・資料の収集の仕方、論文の書き方に従って、論文を執筆したり推敲したりする。さらに、卒業論文・卒業課題研究の内容について研究発表を行い、他の受講者や演習担当者からのフィードバックを媒体にして、調査研究をさらに発展させる。	1.各学生が選んだ卒業論文・卒業課題研究のテーマについて、調査研究を行い、論文を完成させる。 2.英語教授法、および第二言語習得研究についての理解をさらに深化させる。	①	②	③	④	⑤	⑥
英米語海外語学実習	実習	2・3・4	4	2年次の秋学期が終了した春休みに、カナダ、アメリカ、オーストラリアなどで約3週間の集中講座を受講し、オーラルコミュニケーションや現地の文化や歴史や社会について学ぶ。また、様々な施設や名所旧跡を訪れ、現地の文化に直に触れる。さらに、大学が斡旋するホストファミリー宅での生活を体験する。海外出発前に事前研修を入念に行い、海外でのマナーを学ぶ。	1.現地の人々との交流を通じて、実践的な英語力を身につける。 2.現地の文化を体験し、異文化理解を深める。	◎	○	○	◎	○	○
卒業課題研究		4	2	この「卒業課題研究」は選択必修科目であるので「卒業論文」を執筆しない学生はこの科目を履修する。「卒業論文」のようにオーソドックスな論文執筆ではない代わりに、研究レポートや、それに準ずるプロジェクトとまとめる。「卒業論文」が4単位配当であるのに対して「卒業課題研究」は2単位配当で、専属の担当教員は任命されないが、3～4年次で履修する「英米語演習」の担当教員の指導を受けながら各自のテーマを研究する。	1.英米語演習1から英米語演習4で研究してきたテーマを「卒業課題研究」としてきちんとした構成のもとに執筆する力を養う。 2.「卒業課題研究」を人前で発表し、聴衆からの質問に的確に回答したり、評論したりする力を養う。	○	○	◎	○	○	○
卒業論文		4	4	英米語専攻の「卒業論文」は選択必修科目である。英語または日本語のどちらの言語で「卒業論文」を執筆してもよい。「卒業論文」を執筆する学生は、3年次の「専攻演習」を受講するときに担当教員の指導を受けて論文のテーマを決定し、文献資料を収集すると共に収集した文献資料を精読する。また4年次生になると卒業論文執筆のための主査として担当教員が1人ずつ任命され、その指導を受けながら「卒業論文」を執筆する。	1.英米語演習1から英米語演習4で研究してきたテーマを主査の教員の指導のもとに「卒業論文」として執筆する力を養う。 2.完成した「卒業論文」を人前で発表し、聴衆からの質問に的確に回答したり、評論したりする力を養う。	○	○	◎	○	○	○